

Aichi Geidai News

愛知県立芸術大学学長
磯見輝夫

芸術大学の新たな課題

昨年の暮れ、北京において「日本と中国の芸術教育シンポジウム」と題した会議が開かれた。東京芸術大学と清華大学美術学院との共催として催された会議である。日本から参加したのは東京芸大をはじめとする国公立五芸大の学長と教員や職員、中国側は清華大学美術学院と、中央美術学院の院長、中央音楽学院の副院長、また、美術の両大学から教授が参加して日本と中国の芸術教育について現状や課題を発表しあった。

今、中国では、産業の急速な発展に伴うデザイン分野への期待が大きく、美術大学は全国で10校あるが、学生数3,000人から4,000人、また、5,000人という大規模な大学ばかりであり、デザイン専攻のある大学は1,000校を数えるということである。こうした中国の国情に沿った芸術教育の進展についての報告があり、日本の芸術大学との連携に期待をしていることが述べられた。会議の合間に精華大学美術学院と中央美術学院の施設を見学する機会を得たが、大学の規模を含めて、施設の整備に国として多くの資金が投入されていることを実感した。

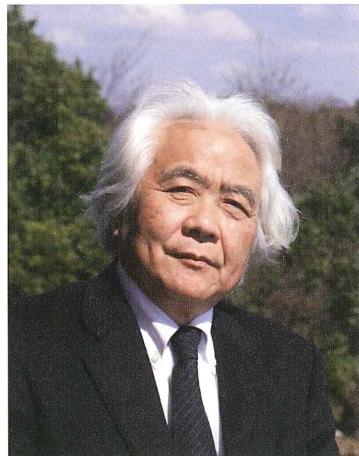
日本からは日本の文化が中国の文化との歴史的なつながりを持って発展してきたこと、その具体的な例などが示された。また、芸術教育について社会的に十分な理解を得ているとは言えない日本の現状に対し、人間にとっての芸術の意味を改めて認識し、人間教育としての芸術教育を積極的にアピールしてゆかなければならぬこと、行動力の必要性が提言された。それはこれまで五芸大の学長の共通した認識でもあった。中国の現状からの問題点と日本のそれとは必ずしも一致したものとは言えなかつたが、公開された会議とは別にお互いの課題を話し合う中ではっきりしたことは、今中国が急速に発展するなかで起きつつある問題が、かつて日本が経験したものと重なることを認識したことであった。日本と中国の歴史的なつながりを基に、芸術教育の発展という目的について連携を深めることを確認し合うことができた。

現在わが国の小学校から始まる美術、音楽の芸術教育は瀕死の状態にあると言ってよい。本来ならば最も柔軟な思考や感覚を持つ子どもたちへの初等教育こそ、創造すること、表現することに多くの経験を持つ教員があたらなければならないはずであるが、過剰な教員の負担、時間数の減少などを含めて、それとは程遠い状態にある。また、中学においては少子化によるクラスの減少によって受け持つ時間数が少なくなり、専任教員を置く環境がやがて無くなる。この状態が続けば中学校に美術の専任教員が居なくなる日もそう遠くない。ものを作り出す力、表現する力を育てるところをおろそかにすれば、それは人間の活力を奪うことになりこの国の衰退につながる。

多くの芸術大学と同様に愛知県立芸術大学の主な教育目的は優れた芸術家を育てることにある。これまで我々の関心は入学してくる学生を如何に育てるかにあって、それ以前の美術教育に対して、研究所等受験に関する教育以外は特に関心を持っているとは言えなかつた。教育は教育大学の領域だという意識が強かったことにもよる。しかし、芸術教育全体の現状を見ると、芸術大学といえども、芸術大学であるからこそ、人間の成長と芸術、そしてその教育をトータルに見て、芸術教育に携わる芸術家の立場から発言する必要があるのではないだろうか。将来芸術大学へ入学してくる学生の資質を作り出すことにも我々は関心を持たざるを得ない状況なのである。

旺盛な創造力と豊かな表現力を持つ人材を得るためににはどうすればよいのか、広い視野を持って芸術教育の全体を考えなければならないだろう。芸術教育を一貫した人間教育のなかでどう位置付けることができるか。芸術大学はまたひとつの課題に向き合わなければならない。

発行日 平成22年3月15日
編集 愛知県立芸術大学広報委員会
デザイン デザイン研究所
発行 愛知県立芸術大学事務局芸術情報課
愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-114
TEL 0561-62-1180 FAX 0561-62-0083
Home Page <http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>



老朽化した学生寮が平成22年3月15日より新築されました。新築された場所は旧教員住宅の跡地で長鶴池の南側です。時代のニーズから個室となり、ベッド、机、椅子、キャビネット、バス、トイレ、ミニキッチン付きワンルームが132室となります。付属施設として10室のレッスン室(内2室はグランドピアノ)、60m²のアトリエ、140人収容の多目的室、各フロアにミーティングエリアや洗濯室が完備されています。全館冷暖房で快適な環境が保証されています。また、万全なセキュリティ設備を設置し、安全な環境を保証しています。

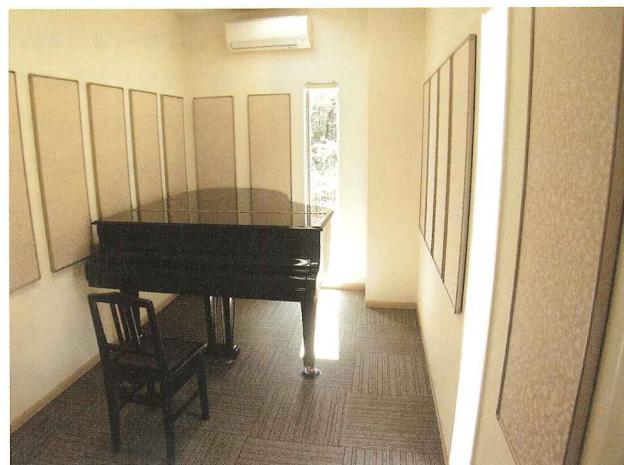
教員住宅の廃止に伴い、単身者用教員住宅が併設されました。約30m²の1DKです。



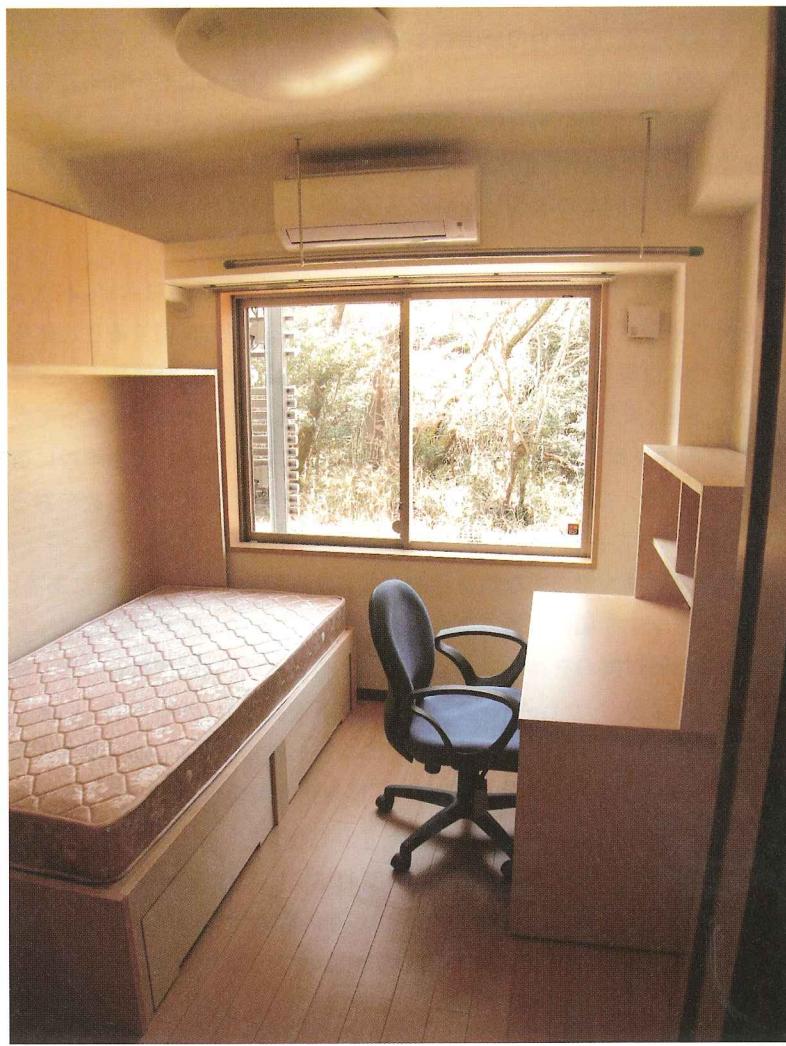
全景 左側教員住宅 右側学生寮



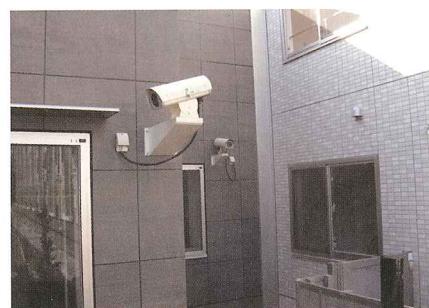
正面入口



レッスン室



個室



監視カメラ



赤外線センサー

芸術創造センターの活動

開かれた大学を目指し、社会との窓口として大学の真価を発信し続け、国際交流と地域連携を中心とした事業活動に奔走した芸術創造センターも、早三才。

4年目を迎えるようとしている今、これまでの経験と実績を集大成し、さらなる発展的な事業展開を願いつつ、平成21年6月から平成22年1月までの芸術創造センターの活動を紹介致したいと思います。

まず今年度のアーティスト・イン・レジデンス事業。美術学部では、10月にタイ、シルバーコーン大学からヤナウィット・クンチャエトーン副学長を招聘し、講演会、アーティスト・トーク「自作を語る」「タイの現代アートの現状と可能性」や公開制作(ワークショップ)を行いました。又12月16日～24日にかけて本学芸術資料館で展覧会「"Season Writes… AICHI" ヤナウィット・クンチャエトーン展」で「オーガニックプリント」等の作品を展示しました。クンチャエトーン氏を通じ、シルバーコーン大学との大学間の協定書締結に向けて大きく進展をしています。また、11月には、「デュッセルドルフ応用科学大学及びマインツ応用科学大学との連携による合同デザインプロジェクト課題」ということで、同校で教鞭をとり、世界有数の照明メーカー・エルコ株式会社で活躍されているプロダクトデザイナーのコッシュ氏とヒルト氏を招聘し、本学のデザイン専攻が海外の大学との連携の一つの可能性として合同授業を行い、それぞれの大学で制作された作品は学生作品展として本学講義棟2階で展示されました。

音楽学部では、5月に「ケルンの風」、ケルン音楽大学からチェリスト、カンギーサー教授と3人の若き演奏家による事業と、フランスのソルボンヌ大学のマルク・バティエ氏による事業を行いました。この二つは先回の学報に既に報告済みです。19年度5名、20年度は4名、今年度も4名のアーティストを招聘したアーティスト・イン・レジデンス事業は大学の研究の充実と活性化に大きく貢献していると自負しております。

今年度から「ヴィラ九条山のレジデンスアーティスト講演」をアリアンス・フランセーズ愛知及びヴィラ九条山との交流事業として始め、現代美術作家イヴ・ベロルジェ氏、作曲家ラジム・ビクリ氏と写真家リュック・アラス氏を招き講演とワークショップをいたしました。

イギリスのロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチン校、ウェールズ王立音楽・演劇大学、ロンドン大学ゴルドスミス校等との交流について協議し、交渉が進行中です。他の大学間交流と同様に多くの課題をクリアしていくかなくしてなりません。

地域貢献としては、愛知芸術文化センターを主会場に実施している『芸大サテライト講座』(30講座)が開催されました。今回は受講料を下げ、PRにも努力した結果、1,065人の受講生が(3年間で2,868人)参加し、大きな成果をあげました。

2009年はメンデルスゾーン生誕200年の記念すべき年にあたり、2008年から演奏会も含めたメンデルスゾーン研究事業を行ってきました。本年はそのテーマに基づく教育研究(サテライト講座・定期演奏会等々でもメンデルスゾーンを取り上げる)の集大成として、中日新聞社との共催で「メンデルスゾーンスペシャル2009」を、ヴァイオリニスト・指揮者G.ボッセ氏のもと愛知芸大弦楽アンサンブルを中心に声楽の教員や学生達、管打楽器の学生達の協力を得て開催し、好評を博しました。

2010年はシューマンとショパンの生誕200年、2021年はリストと続きます。

教育研究機関としての大学が研究テーマを持ち、大学として意義深い地域貢献事業を考察し、活動していく、そんなあり方を望んでいます。

NTTの高画質画像を使っての高大連携事業(『遠隔授業』)は、引き続き有意義な遠隔授業を継続し、今年度から美術の正課に加えて、音楽の正課の遠隔授業も実施されました。

愛知県内の高等学校の美術部生徒及び美術部顧問教員を対象にし、平成19年度から受け入れている愛知県高等学校文化連盟実技講習会は、今年度デザイン専攻が担当し、実施しました。また、主に芸術大学と関わりが深い高校の求めに応じ出張講義も行っております。

演奏会ホール等との提携事業や豊田市美術館等との提携等、地域や文化施設との提携関係がかなり拡がりをみせてきました。7月に名古屋フィルハーモニー交響楽団からの依頼で、同交響楽団の定期演奏会に女声合唱団が出演し、又名古屋市のナゴヤまちかどアンサンブル事業(9月4日～11月28日 3音楽大学との連携事業)では主に管楽器の学生達が演奏活動しました。長久手町文化の家で定着したオペラ公演を美術・音楽学部の複合プロジェクトという協力関係のもとに開催し、さらに一週間後に初めて大府市で公演しました。

Arts Promotion Center 芸術創造センターの英訳です。大学の内外の多くの人々と提携・協同して、一つ一つ良い仕事を推し進めて達成していきたいと願っております。

美術学部
日本画専攻
松村公嗣教授



2008年11月東京日本橋三越を皮切りに、名古屋、大阪、松山と2009年3月まで、松村公嗣日本画展が催されていました。

今回の個展においては、天・空・気をテーマに12か月の自然賛歌を描き上げた作品を中心に、自然の偉大さ過酷さを前に、敬意と感謝の念を込めて制作をされたそうです。この展覧会に出品されておりました四曲一双の屏風「西域火焰山」の前でお話を伺いました。(取材 吉村佳洋)

2007年の末、中国・新疆ウイグル自治区の火焰山へ取材に行きました。空港を出ますと、マイナス30度という普段経験することのない気温の中、肌を刺すような痛さを感じました。

丸一日車を乗り継ぎ見たものは、大自然に人が生かされているという壮大な光景でした。地球上の生き物は、少しの気温の変化によって影響を受けます。中でも人類はもろくもあり、またその自然という大きな力に順応して生きる強い生物でもあります。

私の作品において自然や生き物の1つである人間との関係をテーマとすることが多いのは、実生活では忘れてしまいがちな「生かされている」という自然への敬意に近い感情によります。また「五感全てで感動したものを表現する」私の絵の原点もあります。一年の移り変わりと特に日本においては四季を初め十二ヶ月さらには二十四節氣と微妙に変化してゆきます。春浅し・夏めく・秋澄む・冴ゆる冬。私たちは四季折々、この美しい自然の移り変わりの豊かさの中で、その恩恵を頂いて日々生活をしております。微妙な色合いやにおい、その音の響きなど日本の風土は私たちの細やかな感性を育んできました。雪中の新芽に春の兆しを、散りゆく桜に儂さを感じながら人物・風景・動物・植物など外国の取材も含め日常の移り変わりを描きました。



「熊野古道」 171×363 2009年

学生・卒業生のコンクール等受賞者、入選者紹介

美術学部

日本画専攻

柳沢 優子	第15回松柏美術館花鳥画展 大賞受賞
	再興第94回院展 入選
高田 裕大	日米美術学生展inNY2009 イセ・カルチュラルファンデーション賞
前畠 裕司	再興第94回院展 入選
吉田 真理子	第64回春の院展 入選
永田 恭子	第64回春の院展 入選
加藤 清香	第64回春の院展 入選
増本 寛子	第64回春の院展 入選
兼岩 飛鳥	第64回春の院展 入選

陶磁専攻

原 朋子	第40回東海伝統工芸展 入選
宗像 恵	第40回東海伝統工芸展 入選
桑下 美奈子	第40回東海伝統工芸展 入選
前田 江里奈	第40回東海伝統工芸展 入選
村上 朋見	第40回東海伝統工芸展 入選
俞 期天	第40回東海伝統工芸展 入選
丹羽 一葉	2009年 第27回朝日現代クラフト展 入選
イ・キョンミン	第3回36.5°C CERAMIC New generation 金賞
イ・キョンミン	INTERNATIONAL COMPETITION THE5th WORLD CERAMIC BIENNALE 2009 KOREA 入選

油画専攻

坂本 夏子	第1回絹谷幸二賞 奨励賞
	VOCA展2010 VOCA奨励賞
東条 香澄	全国大学版画展 買い上げ賞
高島 悠史	2009シェル美術展 家村珠代審査員奨励賞

音楽学部

稻垣路子

2003年 愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。桑原賞受賞。卒業演奏会、ヤマハ新人演奏会出演。
2004年 小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトV「ラ・ボエーム」参加。
2008年 第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第1位。
2009年 日本音楽コンクールトランペット部門第1位。



ひとこと

本当に嬉しくまた信じられない!という気持ちです。日本音楽コンクールを受けるときは、多少のプレッシャーはありました。自分の演奏をすることに集中したのでそれが良い結果を生んだのだと思っています。苦手な部分はなるべく克服できるよう練習しましたが、あまり細部にとらわれず、音楽の流れや自分の意思を大切にしました。大学では多くの合奏系授業がありましたが、特にオーケストラで勉強したことがとてもたくさんあります。有名な曲はもちろん数多くのスタンダードな曲を学び、実際の仕事現場に直ぐ適応できたことは愛知県芸のカリキュラムのすばらしさだと思います。今後は自分の音楽にきちんと責任を持ち、ソロ演奏の機会をどんどん増やしていきたいです。

現在、岐阜県立加納高等学校音楽科、石川県小松市立高等学校芸術コース非常勤講師(トランペット)。プラスアンサンブル・ロゼ、名古屋ウインドシンフォニー、鬼頭哲プラスバンド各メンバー。

清水卓也(作曲4年在学中) 第5回JFC作曲賞入選

辻井亜季穂(声楽大学院1年在学中)

第63回全日本学生音楽コンクール 全国大会第2位(大学・一般の部)

鳥海祥子(声楽4年在学中)

第63回全日本学生音楽コンクール名古屋大会 第1位(大学・一般の部)

井藤真緒(ピアノ3年在学中) 第20回吹田音楽コンクール 第2位

大久保理紗(ピアノ4年在学中)

第4回東京芸術センター記念ピアノコンクール 入選

日置ひと美(ピアノ3年在学中)

2010年KOBE国際音楽コンクール最優秀賞 兵庫県教育長賞

田中千尋(弦楽器 2年在学中)

第10回大阪国際音楽コンクール 第3位

吉内紫(弦楽器 院1年在学中)

第10回大阪国際音楽コンクール エスポアル賞

多井千洋(弦楽器 4年在学中)

第10回大阪国際音楽コンクール エスポアル賞

波馬朝加(弦楽器 4年在学中)

万里の長城杯国際音楽コンクール 3位(1位なし)

加藤由佳(弦楽器 4年在学中)

みえ音楽コンクール 第2位(大学生以上の部)

野口まつの(弦楽器 2年在学中)

日本クラシックコンクール全国大会 4位(1、2位なし)

平尾祐紀子(弦楽器大学院1年)

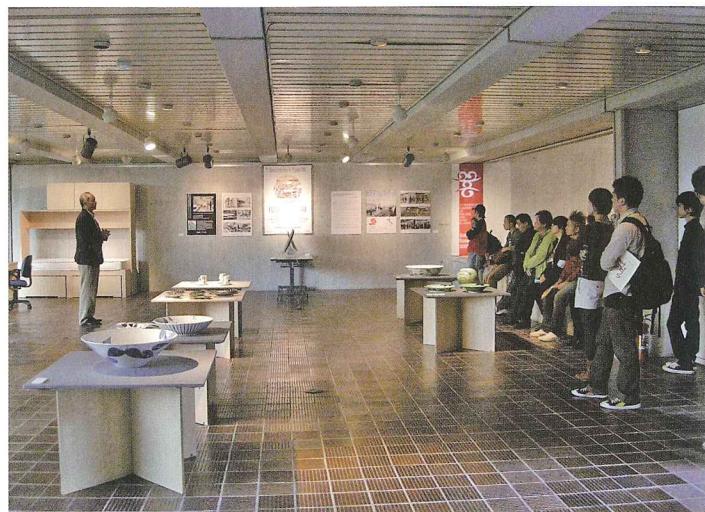
2008年大阪国際音楽コンクール 入選

2009年北陸新人登竜門 合格、アンサンブル金沢と共に演

市芸術賞に4人1団体 特賞に彫刻石黒さん 奨励賞 島田さん、四世野村小三郎さん、森北さん	1.20(火)	中日
匠の線 躍動感ある版画 県立芸術大学学長 市芸術特賞の記念展	1.27(火)	中日
芸術創造センター設立1年 教室・国越え 学びを共有	2.14(土)	朝日
もう一つの高松塚 名古屋で壁画模写展	3.12(木)	中日
見極め"古色"出す 国宝・重文を模写して35年 60点目は「両界曼荼羅図」愛知県立芸術大学	3.24(火)	中日
だまし絵 生で再生 名古屋市美術館 野菜使いオブジェ	4.30(木)	中日
本物の野菜使い再現 だまし絵の傑作をオブジェに 白河宗利	5.8(金)	中日
独・ケスター氏の銅版画作品を展示 今日から県立芸大	5.16(土)	中日
音楽を展示する-パリ万博 1855~1900 (著)井上さつき 軽快な手つき人間模様を描く	5.17(日)	朝日
学外へ積極発信 高まる存在感 独法化3年目 「芸術創造センター」	6.14(日)	中日
愛知県立芸大が市民講座 音楽と美術 来月から	7.14(火)	朝日
愛知県立芸大サテライト講座	7.16(木)	中日
好奇心刺激 段ボール遊具 県芸大美術学部学生 「水都大阪」に出展へ	8.20(木)	中日
県芸大管弦楽団コンサート開催 9月13日 尾張旭市文化会館	8.28(金)	中日
奈良美智さんに聞く 「放課後のはらっぱ」展 愛知県立芸大の師弟20人が出品	9.1(火)	中日
メンデルスゾーンを敬愛、87歳指揮者 ゲハルト・ポッセ 音楽に年齢関係無し	9.14(月)	中日
法隆寺壁画 忠実に 県立芸大で模写作品展	9.16(水)	中日
絵画とは 15年の軌跡 設楽智昭展 名古屋	9.18(金)	朝日
県芸大生の段ボール遊具 「水都大阪」で大人気	9.22(火)	中日
教員競演 現代アート 表現多彩に 県芸大で作品展 磐見学長も木版画出展	10.15(木)	中日
音コン・トランペット部門 稲垣さん1位	10.23(金)	毎日
手作りオペラ 来て 県立芸大学生が30日上演	10.28(水)	中日
大府市役所にオペラの調べ 大学院生 公演PR	11.3(火)	中日
名古屋大会 フルート、声楽 垣原さん、松原さん1位 学生音コン	11.4(水)	毎日
投キューの負担軽く 愛知県立芸大教員 パラ五輪使用目指す 車いすカーリング用器具試作	11.13(金)	中日
女性で初Vの快挙 稲垣路子「まさか」と喜び 日本音楽コンクール トランペット部門	11.16(月)	中日
院生オペラ 看板事業に 愛知県立芸術大学 美術学部も協力 背景に先端映像 陣容200人	12.1(火)	中日
学生音コン全国大会 大学・一般 杉山さん	12.2(水)	毎日
本格オペラ公演 県立芸大院生 大府で13日	12.3(木)	読売
倉知比沙支の世界	12.9(水)	中日
植物インクで版画 県立芸大で展示 タイの作家「自然素材で色変化」	12.17(木)	中日
「路地、地下街でも演奏会やってよ」音楽が流れる街づくり まちかどアンサンブル	12.20(日)	中日
美声が聖夜演出 県立芸大生Xマス演奏会	12.22(火)	読売
回顧 東海2009 美術 歴史読み直す好企画 現代画師弟の競演も	12.25(金)	朝日



院オペラ



教員展ギャラリートーク

写真で見る様々な活動



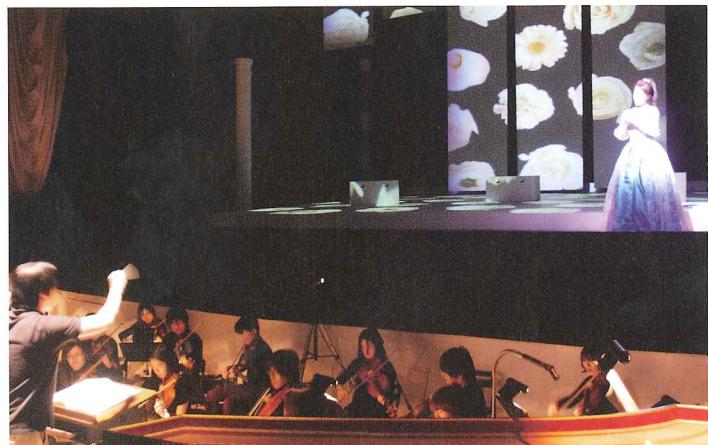
定期演奏会



美術学部35回教員展



ウエルカムパフォーマンス



院オペラ コジファントゥッテ



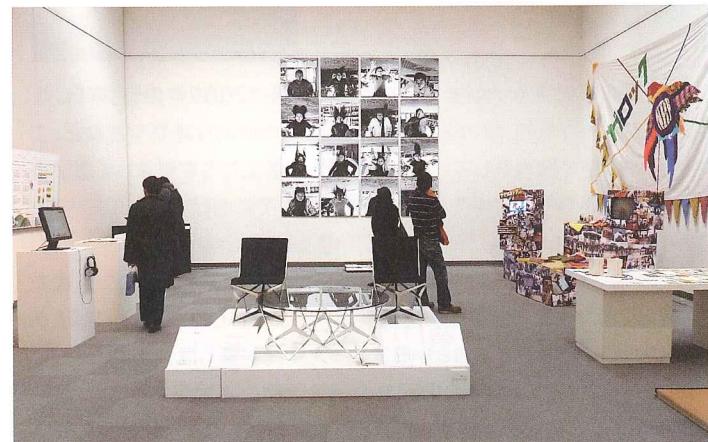
ケルン音楽大との連携プログラム



平成21年度卒業修了制作展入口

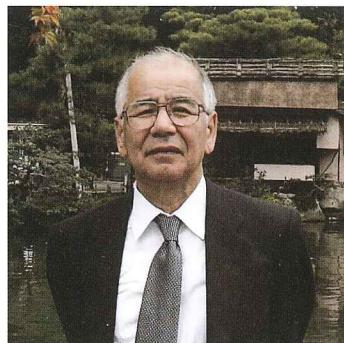


ラシック☆ク☆ラシック



平成21年度卒業修了制作展

田渕俊夫
日本画専攻客員教授



1970年12月1日付で、私は愛知芸大助手に採用されました。当時はまだグリーンロードは建設中で、舗装のはがれたでこぼこ道を長久手村役場の方向まで大きく迂回して、やっと大学に到着するような状態でした。しかし、丘の上に広がるキャンパスに点在する大学の建物は真新しく、教員住宅も整備されていて、東京での画家として不安定な生活を送っていた私にとってはまるで夢のような世界でした。

その頃の私は主に雑草を主題にした絵を描いていましたので、自然が残る田園地帯は植物の宝庫であり、29歳の私にとっては最高の環境でした。大学の仕事の合間に、スケッチブックを片手に野を歩き回り雑草の写生を繰り返しました。今考えると、誰にも邪魔されないで写生に熱中できたあの時間がなければ、今日まで絵を描き続けてこられなかっただかもしれません。それほど、私は充実した日々を長久手で過ごしていたのだと思います。まさに愛知芸大が私を育ってくれたのです。

私は85年7月東京芸大に移りましたが、2009年10月から縁あって再び愛知芸大に関わるようになりました。私を育てくれた愛知芸大に少しでも恩返しをしたいと思ったからです。24年経った長久手の発展は目を見張るばかりですが、久し振りに訪れた愛知芸大はだいぶ古くなりましたが、懐かしい思い出が私を迎えてくれました。

竹村淳司
器楽専攻准教授



私が愛知県立芸術大学をはじめて訪れたのは2009年の5月末日。想像を超す膨大な敷地、緑の眩しいキャンパス、象徴的な建物などなど。この大自然の中で勉強をしていくことができる学生たちを羨ましく思いました。そして自分もこの中で学生の音楽のすべてにおけるレベルアップのお手伝いをしたいとあらためて強く思いました。

ホルンという楽器はもともと中世ヨーロッパの狩り時の意思の伝達であったり、または山と山を結ぶ連絡手段でもありました。それと同じような環境の中で勉強ができるということは大変興味深く思います。

私は通算すると14年半の楽団での演奏活動の経験があります。オーケストラなどで楽器を演奏するという作業は先ほどの大自然の中から派生した楽器という事とはおよそ近くない状況もあります。刻々と変わって

いく状況の中でいかにストレスなく、良い音で、聴衆を魅了する演奏を心がけていかなければなりません。しかし、最終的には聴衆が聴いて「良かった」か「悪かった」かのどちらかでしかありません。難しことではなく、聴衆が聴いて「良かった」と思って帰途についていただくということ、私はそういうことを学生たちが目指していっていただけるように手助けをしていきたいと思います。

このような抜群の環境の中で学生同様、私も頑張っていきたいと考えています。

山本裕之
作曲専攻准教授



車で、あるいは歩いて管理棟の裏から奏楽堂へと続く道をゆくと、右手に講義棟を見上げることになります。この美しい光景を見るたびに、この大学は芸術文化を育むことを目標として設立された事を強く実感します。東北の某大学教育学部で6年間勤めたあと、これまで縁もゆかりもなかったこの地に赴任してもうすぐ1年になろうとしています。それぞれの道を究める刺激的な諸先生方やユニークかつ個性的な学生達とともに、この専門大学で仕事が出来る充実感を感じています。作曲家はプレイヤーではないので、その意味では美術作家と同じレイヤーにいますが、近年とみに活性化している現代アートと比べると、現代音楽というものはマイチ地味でアピール性に欠ける印象があるかも知れません。打破するヒントはたくさんあるはずですが、それを自分の中の何かと結びつけてアウトプットさせるためには、常に音楽や芸術文化について考えられるモードに身を置く必要があります。日常の中で大学の教員はやらなければならない業務がたくさんあり（それは職業としては特殊なことだと、と先日のFD講演会の先生が指摘されました（まさにそうかもしれません））、しかし同時に作曲家としての質も維持向上させなければなりません。とてもエネルギーの要ることですが、専門大学ならではの環境に身を置き、たくさんのことと諸先生方や学生達から学べるこの状況に感謝しながら、自分の微力を痛感しつつ教員として、そして作曲家としての仕事を少しづつ結実させていきたいと思っています。

大塚直

教養教育等准教授



愛知芸大を初めて訪れたのは、採用前の面接試験のときだった。ドイツのマウルブロン修道院を思わせる美しい自然環境。森の小路を不安な気持ちで延々と歩いたのを思い出す。ようやく丘の上に辿り着くと、県芸の独特なオーラに包まれた。これは芸術大学の醸し出す気品のオーラか、それとも長久手古戦場の亡靈たちのオーラなのか、きっと後者に違いないなどと考えると、こみ上げてくるおかしさを抑えきれなかった。やがて奏楽堂から聞こえてくる凛とした楽音に気付くと、今度はこんな山の中でひたすら芸術に身を捧げる学生たちの姿を想像して、頭の下がる思いがした。

18世紀に活躍したドイツ・ロマン派の始祖ヘルダーの思想に「極限」という考え方がある。彼は歴史や文化の背後に神の摂理を見てとり、どの時代、風土、民族にも必ず生み出せる最高値を「極限」と呼んだ。どんな花もいはずれは枯れてしまうが、その花にしか表現できない「極限」を持つ。そしてあらゆる「極限」を照らし合わせることで、神の構想する「人間性」は開示されるという。この着想はオーケストラにも似て、各楽器、各パートが全力を出し、自己の最高値に到達すると同時に、全体として調和がとれて初めて音楽は成立しよう。そこに無駄や優劣は一切ないのだ。しかし各人が人間として「極限」に至るためにには、やはり教養教育の手助けも必要だろう。

クラシックの響きに「極限」を連想したあの日を、今この文章を書きながら思い返している。

佐藤文子

陶磁専攻講師



陶土で形をつくり、絵付けをして、釉薬をかけて窯で焼成する。

そんな陶芸の世界に出会って、あっという間に15年になりました。

緑溢れる豊かな自然環境の中で、陶芸の基礎となる原料素材の研究やロクロによる成形技術の習得、窯焼成、すべてのことが魅力的で無我夢中に制作してきました。そして瀬戸・美濃といった陶産地の伝統と多様な造形を学び、やきものとしての質感と、絵画的表現の可能性を制作テーマとして、創作を展開しています。

学生との授業の中で、粘土や天然顔料の採集や、農薬を使っていない稻の藁を灰にして釉薬にしていくといった地道で堅実なプロセスを純粋に取り組む姿に、私自身が初心に戻り刺激を受けています。

美しいものを創り出す面白さと喜びを学生の皆さんと共有していくたいと思っています。

井土慎二

教養教育等准教授



歳をとると一年が短くなる。そういう話をよく聞く。

これは加齢に従って時間が過ぎる早さが増すということだ。これが40歳の人に意味することは何か。

その人の寿命を80年とする。するとその人の主観時間による余命は40年未満だ。40歳以降も主観時間は加速を続ける。その速さによっては歳50にしてその人は人生の90%を生きてしまったということになりかねない。いまわの際には「最後の50年は一瞬に過ぎたな」と思うのかもしれない。

なぜ歳をとると1年が短く感じられるのか。初めて行う作業(問題解決)にかかる時間は長く感じられる。その作業に慣れると同じ時間が短く感じられる。歳をとると初めて行う作業が減り、慣れた作業が増える。その結果、主観時間の合計は少なくなる。そんな説明がある。

この説明が妥当なのかはわからない。歳をとると本当に1年が短く感じられるのか。実はそれも私には分からない。私の1年は長い。二昔前ほどの短かったかもしれないと思え感じる。

私は本学に奉職を始めたばかりだ。慣れた作業も増えていくと思う。10年後には上記の説明の(主観的な)当否が分かるようになるかもしれない。その時まで楽しい発見のある授業や研究活動を続けたい。

教員紹介

(平成21年度着任教員)

愛知県立芸術大学 平成22年度前半の演奏会・展覧会情報

■ 演奏会

月	日	曜日	演奏会名	開催場所	開演時間	概要
4月	13日	火	学内演奏会	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
	20日	火	学内演奏会(管打楽器)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
	27日	火	学内演奏会(管打楽器)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
5月	12日	水	アーティスト・イン・レジデンス2010 ヴィタリー・マルグリスピアノリサイタル	三井住友海上 しらかわホール	19:00	カリフォルニア大学ロサンゼルス校ヴィタリー・マルグリスピアノリサイタルによる、ショパン生誕200年祭にふさわしいプログラムのソロピアノリサイタル。
	14日	金	アーティスト・イン・レジデンス2010 ヴィタリー・マルグリスピアノ公開レッスン	宗次ホール	18:00	ヴィタリー・マルグリスピアノによる公開レッスン。
	15日	土	愛知県立芸術大学J.S.Bach-MusikkapelleコンサートVol.7 ～バッハの世界へご招待～	カトリック五反城教会		指揮:本山秀毅 バッハ:ヨハネ受難曲BWV245
	18日	火	学内演奏会(弦楽器)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
	25日	火	学内演奏会(ピアノ)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
6月	5日	土	愛知県立芸術大学管弦楽団春季特別演奏会 (みよし市)	文化センターサンアート	14:00	指揮:栗田博文 管弦楽:愛知県立芸術大学管弦楽団 デュカス:交響詩「魔法使いの弟子」 モーツアルト:交響曲第31番 二長調「パリ」K.297 ベルリオーズ:幻想交響曲
	8日	火	学内演奏会(ピアノ)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
	15日	火	学内演奏会(弦楽器)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
	22日	火	学内演奏会(弦楽器)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
7月	6日	火	学内演奏会(声楽)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
	13日	火	学内演奏会(声楽)	愛知県立芸術大学奏楽堂	18:00	
9月	12日	日	ポピュラークラシックコンサート	愛知県立芸術大学奏楽堂	15:00 (予定)	指揮:外山雄三 管弦楽:愛知県立芸術大学管弦楽団 ハイドン:交響曲第82番 ハ長調「熊」 ベートーヴェン:交響曲第6番 へ長調 作品68「田園」 ドビュッシー:交響詩「海」
	18日	土	夢 サラマンカホールからの贈り物 2010 愛知県立芸術大学 選抜メンバーによる室内楽コンサート パート1(仮称)	岐阜県民ふれあい会館 サラマンカホール		愛知県立芸術大学とサラマンカホールとの提携事業。 オーディション等で選考された出演者によるソロ、室内 楽コンサート。
	26日	日	室内楽の楽しみ	長久手町文化の家 森のホール		愛知県立芸術大学と長久手町文化の家との提携事業。オ ーディションで選考された出演者による多様な編成による 室内楽コンサート。

■ 展示会

【芸術資料館】 10:30 ~ 16:30

演奏会名	会期	概要
四芸祭学生作品展	5月20日(木) ~ 5月23日(日) <20日 13:00 ~ 16:30> <23日 9:30 ~ 12:00>	国公立5芸術大学の学生による作品展。
油画・版画領域博士前期課程2年生研究発表展	6月11日(金) ~ 18日(金)	油画・版画領域の博士前期課程2年生の作品展。
油画・版画領域博士前期課程1年生研究発表展	6月24日(木) ~ 7月1日(木)	油画・版画領域の博士前期課程1年生の作品展。
油画専攻4年研究発表展	7月7日(水) ~ 15日(木)	油画専攻4年生の作品展。
デザイン専攻作品展	7月23日(金) ~ 30日(金)	デザイン専攻の1年生から4年生の作品展。
平成22年度アウトリーチ「アイチ・ジーン」	9月14日(火) ~ 10月3日(日) <休館 月曜日>	清須市はるひ美術館と連携。両館収蔵品及び愛知県ゆかりの若手作家作品を中心とした展覧会。 (はるひ美術館、豊田市美術館ギャラリーを巡回)

【法隆寺金堂壁画模写展示館】 10:00 ~ 16:00

春季二期	法隆寺金堂壁画模写春季展 特別陳列一高松塚古墳壁画模写	4月16日(金) ~ 4月30日(金) <休館 18日 19日 26日>	法隆寺金堂外陣壁画現状模写12点、同内陣壁画(飛天)現状模写20点、同内陣壁画(飛天)復元模写1点のほか、高松塚古墳壁画東西北壁画及び天井画の模写各1点を紹介。
春季三期	法隆寺金堂壁画模写春季展 特別陳列一俱舎曼荼羅図模写・絵因果経(東京藝大本)模写	5月18日(火) ~ 5月30日(日) <休館 24日>	法隆寺金堂外陣壁画現状模写12点、同内陣壁画(飛天)現状模写20点、同内陣壁画(飛天)復元模写1点のほか、東大寺所蔵俱舎曼荼羅図模写・絵因果経(東京藝大本)模写11点を紹介。
秋季一期	法隆寺金堂壁画模写秋季展 特別陳列一法華寺所蔵阿弥陀三尊及び童子像模写	9月16日(木) ~ 9月30日(木) <休館 20日 27日>	法隆寺金堂外陣壁画現状模写12点、同内陣壁画(飛天)現状模写20点、同内陣壁画(飛天)復元模写1点のほか、法華寺所蔵阿弥陀三尊及び童子像模写3点を紹介。